

## 今日の聖書のことば

### 1月3日(日) 出エジプト 32章

神はご自身が常にともになりますことを、目で見える形で示すために、モーセに、ご自分のために特別な天幕を建設せよの指示を与えてました。幕屋は神の指示通りに造られました。

### 1月4日(月) 出エジプト 33章

幕屋全体は神の臨在の形である。神の臨在の場所であるゆえに、同時に民が神に近づく道である。その中に聖所がある。神ご自身が詳細な模型を与えられ、その詳細は「このようにしなければならぬ」と記されている。

### 1月5日(火) 出エジプト 34章

ここには幕屋についての細かな規定が続いている。祭壇の作り方、幕屋の周囲に庭を作るために設けられ、掛け幕はについて。幕屋の中に置いてある燭台のともしびは絶えずともしておくべきことが命じられている。

### 1月6日(水) 出エジプト 35章

ここには大祭司とその子たちの衣服について規定されている。大祭司の衣服は主キリストの完全さにかたどったものである。それは彼自身のためではなく、彼が仕え、代表者しているお方にふさわしくするためでした。

### 1月7日(木) 出エジプト 36章

祭司をその職に任命するための手順が記されている。その準備をするためのささげ物について、祭司の任職のためのいけにえについて述べられる。ここに示された手順は私たちの生活にも必要なことである。

### 1月8日(金) 出エジプト 37章

ここには幕屋についての追加規定がある。こうしたこまかな規定がいくつも定められているのは、神を礼拝しようとする者が、いい加減な気持ちでははならないことを現している。これらの規定をすべて神が定められたと言うことは重要な点です。

### 1月9日(土) 出エジプト 38章

安息日の守り方が述べられている。幕屋が作られた目的はまさにここにあります。主は安息を与えてくださっただけでなく、本当の安息は、幕屋において主を礼拝することだと教えられている。

---

## ろば No. 2000

2021年 1月 3日  
日本バプテスト立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

使徒言行録 28:15

ローマからは、兄弟たちがわたしたちのことを聞き伝えて、アピイフォルムとトレス・タベルネまで迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神に感謝し、勇気づけられた。

「肉や心の欲するままに行動して」いました。人のことではありません。それは私たち自身のことなのです。

バプテスマのヨハネが「荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝え」ました。「ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受け」(マルコ1:4-5)しました。そこに私たちは目を向けさせていただかねばなりません。「ユダヤの全地方とエルサレムの住民の皆」がヨハネのもとに来て「罪を告白して」バプテスマを受けたのです。彼らは犯罪者ではありません。告白すべき罪を彼らが持っていたというわけではありません。しかし、彼らはヨハネの悔い改めの勧めに答えたのです。私はそのことに思いを向けさせてい

新年おめでとうございます。主の祝福豊かな一年を過ごすことが出来ますよう祈ります。この新しい年の初めに、もう一度、私たちの信仰が私たちの生きる力の源であることを確認させていただきます。

パウロは「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。わたしたちも皆、こういう者たちの中にいて、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした」と言いました。

私たちは、パウロのこの指摘をどのように受け止めてきましたか。パウロにそのような指摘を受けても、多くの人たちはそれを拒みました。自分は正しく生きてきました。そのような身勝手な生活をしてきた覚えはない、と拒みました。私たちは気づいてはいないかも知れませんが、まさしく

ただのです。彼らの人生の中で神に忠実であることは、彼らの心に植え付けられてきたもので、ヨハネの言葉に彼らは自らを確認して、ヨハネの前に立ったのです。「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(申命記 6:4,5) は、彼らが歩むべき道でした。しかしパウロが告げるように「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。」

イエスがたとえ話で語られた、迷い出た子羊のお話です(ルカ 15:1-7)。羊飼いが「見失った」羊です。子羊は自分で群れを離れました。にもかかわらず羊飼いは、他の 99 匹を野に置いて見失った子羊を探しに行きます。それが神さまです。「以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした」。しっかり自分を見つめることです。そこで、私たちは、私たちの生きる力の原点を見出させていただきます。見失われた私を、主は探し求めていてくださいます。しっかり自分を知ることこそが、私たちの救いです。罪人である自分を悔い改めて、救いを求めます。

..... < 聖書の学び・祈禱会 > .....

力ではなく神の言葉で生きる マタイ 4 : 1 - 11

### 1. 始めに聖書を読もう。

マタイ 4 : 1 - 11

聖書教育 20 - 21 頁を読む。

### 2. 聖書から教えられたことを書き留める。

### 3. み言葉を味わおう

イエスがバプテスマを受けられたとき、御霊が鳩のように降って祝福されました。その御霊はまず主を荒野に導かれました。そこで悪魔は、食欲、名誉欲、物質欲の三つを持って、十字架による救いの道を閉ざそうとしました。

主は私たち人間と同じようになられました。私たちが経験することを同じように経験されました。40日40夜の断食をして空腹を覚えられていたイエスにとって、「石をパンに」との言葉は大きな誘惑でした。それをイエスは『人はパンのだけで生きるのではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある」と拒絶されます。そこには明確なイエスの生き方が示されています。

イエスは受けられた三つの誘惑のすべてに、旧約聖書のみ言葉を持って打ち勝たれました。「書いてある」と答えられたことは、「私はこのみ言葉の通りに生きる」というイエスの決意を表されています。悪魔は「神の子なら」と誘惑をしましたが、それは悪魔の計算違いであったと言わねばなりません。イエスは私たちの救いのために「神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者に」られました。

私たちが誘惑に勝つ方法は、これ以外にはありません。ほんとうに私たちはイエスに倣って、み言葉で生きるのです

< 祈り >

主よ。御子イエスがみ言葉をしっかりと受け止め、生きられたように、私もみ言葉に生きる者として、御霊の顧みを与えてください。

### 4. 「み言葉を味わおう」から教えられたことを書き留めよう。